



# Mantodea

電動アシスト自転車  
取扱説明書

## はじめに

このたびは、本商品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。電動アシスト自転車は一般的な自転車と同様にお乗りいただけます。ただし、普通の自転車と異なる部分もありますので、以下の項目をお守りください。

- 乗車される前には必ず、本取扱説明書をお読みいただき、安全・快適にご使用ください。
- 本取扱説明書を紛失しないよう、大切に保管してください。
- 製品をほかの人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
- お子様のご使用になる時は、必ず本書を保護者の方がお読みになっていただき、正しい乗り方をご指導くださいますようお願いいたします。
- 取り扱いがわからないときは、購入したモール（楽天市場・Yahoo! ショッピングなど）の購入履歴からショップへお問い合わせいただくか、メールで [customer@ange-store.jp](mailto:customer@ange-store.jp) へお問い合わせください。  
メールでのお問い合わせ時には、以下をご記入の上ご連絡下さい。
  - ・ 購入者名・ご購入日・ご購入先（販売店と購入 EC モール名）
  - ・ お問い合わせ内容（故障内容、その他）
- より良い製品をご提供するべく、改良などにより、予告なくデザイン・仕様変更がある可能性があります。予めご了承下さい

# 目次

1. 安全のために	-----
1.1 電動アシスト自転車を安全に使用するために	-----
1.2 自転車の交通ルールとマナーについて（必ずお守りください）	-----
1.3 自転車安全利用五則	-----
1.4 転倒や衝突事故を防ぐために	-----
1.5 バッテリーと充電器	-----
2. バッテリーについて	-----
2.1 電動アシスト自転車のバッテリーについて	-----
2.2 バッテリーの特性	-----
2.3 バッテリーの交換保証とリサイクルについて	-----
2.4 充電のやり方	-----
3. 乗る前に	-----
3.1 日常点検	-----
3.2 走行モードについて	-----
4. タイヤについて	-----
4.1 空気を入れる時の注意事項	-----
5. 乗車時の注意	-----
5.1 発進のしかた	-----
5.2 ブレーキ操作	-----
5.3 前照灯の操作	-----
5.4 サイクルコンピューターの機能	-----
5.5 荷物の積載	-----
5.6 組み立て方	-----
5.7 各部の名称	-----
6. 車体仕様	-----

# 安全のために

## 1.1 電動アシスト自転車を安全に使用するために

### ！乗車前には必ず点検を実施すること

取扱説明書をよくお読みいただき、必ず点検を実施してください。点検実施後、異常が見つかった場合はすぐにお近くの自転車店で点検を受けください。また、異常がある状態で使用しますと、思わぬ事故・怪我につながる恐れがあります。

### ×急ハンドル・急ブレーキはしないこと

急ハンドルや急ブレーキは、スリップなど思わぬ怪我・事故につながる恐れがあります。

### ×フレームやブレーキなどの改造や分解をしないこと

むやみに改造や分解をすると、部品の破損につながり、思わぬ怪我・事故につながる恐れがあります。

### ×片側だけのブレーキ操作をしないこと

ブレーキは必ず前後ともにかけてください。片側だけだとスリップなど思わぬ怪我・事故につながる恐れがあります。

### ×けんけん乗り（けり乗り）をしないこと

必ずサドルにまたがって走行を開始してください。けんけん乗りをしますと転倒や接触事故による怪我のおそれがあります。

※「けんけん乗り」→片足でペダルをこぎながら助走をつけ、反動をつけた後にサドルにまたがる乗り方のことです。

## 1.2 自転車の交通ルールとマナーについて（必ずお守りください）

### 自転車の発進・停止・合図

- ・発進するときは、見通しのきく道路の左側で、後方と前方の安全を確認する。
- ・右折、左折するときは、早めに合図する。
- ・停止するときは、安全を確認して停止の合図を行い、道路の左側に沿って停止し、左側に降りる。



## 自転車の通るところ

- ・ 車道を通るときは、車道の左側に沿って通行する。
- ・ 自転車は路側帯を通ることができますが、歩行者の通行に大きな妨げになるところや、白線が2本引かれている歩行者用路側帯は通ることができません。
- ・ 自転車歩道通行可の標識のある歩道は、つぎの方法により通行することができます。
  - (1) 歩道の車道寄りの部分を徐行する。
  - (2) 歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止する。
- ・ 自転車道のあるところでは、自転車道を通る。
- ・ 道路を横断するとき、近くに自転車横断帯があれば、自転車横断帯を通る。自転車横断帯がなく近くに横断歩道があるときは、自転車を押して横断歩道をわたる。
- ・ 車道では停止中の自動車のドアが開く恐れがあることに注意してください。



## 自転車が通行できる歩道、路側帯を通るとき注意

- ・ 歩道は歩行者優先であり、車道側に寄り、徐行すること
- ・ 歩行者の通行を妨げない。
- ・ こども、身体の不自由な人が歩いているときは、一時停止か、十分に速度を落とし、徐行すること。
- ・ 自転車は車道通行が原則です。道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられ

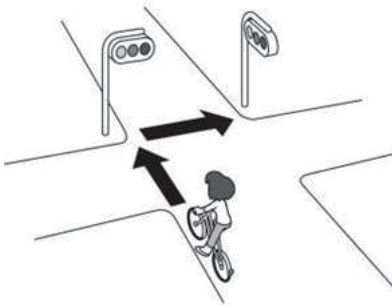
ています。したがって、歩道と車道の区別のあるところでは車道通行が原則です。但し、次の場合には歩道を通行することができます。

- (1) 道路標識等で指定された場合
- (2) 運転者が児童、幼児等の場合
- (3) 車道または交通の状況からみてやむを得ない場合

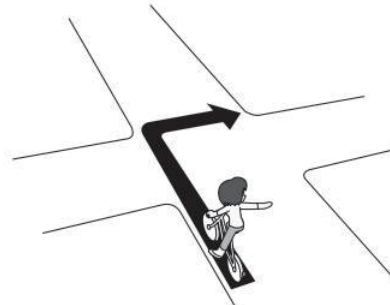
## 交差点の通り方

- ・ 右折の方法

信号など交通整理が行われているところ。



信号がなく交通整理が行われていないところ。



- ・ 自転車横断帯があるときは、その自転車横断帯を通る。
- ・ 自転車進入禁止標識のある交差点では、標識の誘導に従い、歩道に入って自転車横断帯を通る。

## 1.3 自転車安全利用五則

自転車は、車道が原則、歩道は例外

道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられています。したがって歩道と車道の区別があるところは車道通行が原則です。

### 車道は左側を通行

自転車は、道路の左端に寄って通行しなければなりません。

### 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行

歩道ではすぐに停止できる速度で走行し、歩行者の通行を妨げる場合は一時停止しなければなりません。

### 安全ルールを守る

- ・ 飲酒運転は禁止
- ・ 走行中の携帯電話の使用は禁止
- ・ 二人乗りは禁止
- ・ けんけん乗りをしない
- ・ 並進は禁止
- ・ 夜間道路を走行するとき及びトンネル内を走行するときには前照灯を点灯する
- ・ 信号を守る
- ・ 交差点での一時停止と安全確認
- ・ 歩行者に危害を及ぼすおそれがある突出物の装着は禁止

### 子供はヘルメットを着用

児童・幼児の保護責任者は、児童・幼児に乗用車のヘルメットをかぶせるようにしましょう。

## 1.4 転倒や衝突事故を防ぐために

### 安全な服装で乗車する

長いマフラー、すその広いズボン、長いスカート、滑りやすい靴やかかとの高い靴などは避けてください。（スニーカーなどのかかとの低い靴をお勧めします）車輪やチェーンに巻き込まれたり、足がペダルから外れ、転倒や怪我のおそれがあります。また、チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり危険であるので、すぐにお近くの自転車屋さんで調整をお願いします。

### 夜間走行前には必ずバッテリーの残量を確認する

前照灯はバッテリーを電源としていますので、バッテリー残量が減少しアシスト走行ができなくなった場合、しばらくすると消灯します。消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

また、無灯火での走行は法令により禁止されています。

## けんけん乗りをしない

転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。必ずサドルにまたがって、発進してください。

\* けんけん乗りとは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗り方です。

## カーブで進行方向側（曲がる側）のペダルを下げない

ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

## 発進時はペダルを強く踏み込みすぎない

思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

## 片側だけのブレーキ操作はしない

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。ブレーキは必ず前後ともにかけてください。

## 停車中はペダルに足を乗せない

不用意なアシストがはたらき、転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。停車中は前後のブレーキをかけてください。

## 急ハンドル、急ブレーキはしない

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

## 滑りやすいところでは乗らない

積雪や凍結した道、ぬれている鉄板やタイル、点字ブロック、マンホール、ぬかるみなどでは、スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

## かぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない

体調不良時は運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。

## 凹凸の激しいところを走らない（歩道の段差や、溝など）

ハンドルを取られて転倒によるけがのおそれがあります。また、フレームや車輪、またはドライブユニットなどが損傷し、転倒によるけがのおそれがあります。

## 踏み台代わりなど走行以外に使わない

転倒によるけがのおそれがあります。

## 乱暴な乗りかたはしない

アクロバットな乗りかたや急発進・急旋回をすると、転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

## 雨天時は前後ブレーキを併用し、速度を落として走行する

雨天時では、タイヤが滑りやすくなったりブレーキの効きが弱くなることもあり、転倒によるけがのおそれがあります。

## 自転車が完全に止まってから降りる

自転車が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。自転車が完全に停止してから、ブレーキを握ったままゆっくりと降車し、平坦で安定のよい場所に自転車を停車・駐輪させてください。

## 駐輪するとき

駐輪するときは、平坦で硬い路面に駐輪してください。また、駐輪後に自転車から離れるときは、自転車が安定して動かないことを確認してください。傾いた路面や、砂利などの柔らかな路面に駐輪すると、自転車が動き出したり、転倒したりして事故につながるおそれがあります。

## 手やハンドルに荷物や傘をかけたり、ペットをつながない

荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

## 積載条件から外れる荷物を積まない

バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

## 傘やステッキ、釣り竿などを車体に差し込んだり、車輪の近くにつり下げて走らない

車輪に巻き込まれたり、他の人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。

## スポークの間に物をはさんで走らない

車輪に巻き込まれるなどして転倒によるけがのおそれがあります。

## 走りながら携帯電話をかけたり、メール操作などをしながら走行しない

道路交通法で禁止されています。片手運転と前方不注意により、衝突や転倒のおそれがあります。



## 1.5 バッテリーと充電器

### 必ず守ること

非常に暑い／寒い環境は充電が正しくできない場合がありますので、次のような充電に適した環境で充電を行ってください。

- ・ 温度は 15 ～ 25℃
- ・ 室内
- ・ 雨水に当たらないところ
- ・ 湿気の少ないところ
- ・ 直接日光に当たらないところ
- ・ 風通しがよいところ
- ・ 平らで充電器が安定して設置できる場所
- ・ 幼児やペットが触れないところ
- ・ 長時間使用しない場合は取り外すこと。また保管する場合は涼しく乾燥したところに保管すること。月に 2 回（4 時間）充電してください。残量が半分程度になるようにすること。電源切れ、或いはバッテリー残量が少なく（20%~30%）、長い時間充電しない場合では過放電してしまい、充電できない恐れがありますのでご注意ください
- ・ 充電時は必ずマニュアルに従ってください
- ・ バッテリーをショート（短絡）させない
- ・ バッテリーを火に近づける・電子レンジに入れる・加熱させる・高温状態で放置するといったことはしない
- ・ バッテリーを水やその他液体に入れない、使用機器の防水性を過信しないこと

### できる限り濡らさない

- ・ 充電するときは専用の充電器を使用すること
- ・ バッテリーに強い衝撃を加えたりしないこと
- ・ プラスマイナス間違えないよう正しく取り付けること
- ・ バッテリーが破損したときや、傷を発見したとき、または異臭がするときには使用しない
- ・ 膨張などその他異常が確認できた場合は使用しない

### おやめください

- ・ 充電器に水をかけたり、屋外で使用する
- ・ 大雨などで自転車本体（バッテリー部）が水に当たったままで使用する
- ・ バッテリーを破壊、分解、改造すること
- ・ 6 時間以上充電すること
- ・ コンセントや配線器具の定格を超えた状態や、家庭用コンセント（AC100V）以外で使用する
- ・ 充電中に自転車にカバーをしたり、上に物を置いたりすること

## 充電時の注意事項

- ①充電は風通しの良い場所で行ってください。
- ②充電中、バッテリーに接続してから電源プラグをコンセントに差し込んでください。また、充電完了後、コンセントから電源プラグを抜いてから充電器側のプラグをバッテリーから外してください。
- ③ランプが緑色に点灯したら直ちに電源を切ってください。充電しない場合は、充電器をコンセントに接続したままで長時間放置しないでください。
- ④充電中の異音・異臭・煙がでるなど異常に気がついたら、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーも充電器から取り外してください。

## バッテリーの長期保管

- ①バッテリーの保管は、暑い場所でも寒い場所でも寿命を縮めます。家の中で15°Cから25°C位で保管、充電してください。
- ②バッテリーを長くご使用頂くためには、手元残量が20%以下になってから、充電してください。バッテリー残量の表示は以下となっております。



100%



50%



20%

- ③冬では一回のフル充電での走行距離が短くなります。また夏では、高温になる場所で保管されると、著しくバッテリーの寿命が短くなる可能性がございます。
- ④1ヶ月以上使用しないときは、残量を半分ほど残した状態で気温変化の少ない室内で保管してください。

注意：バッテリー残量が空の状態でも長く保管された場合は、正常に充電が出来なくなり、寿命を大幅に縮めます。

- ⑤自転車・充電器を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。使用済みの充電式バッテリーは、お早めにリサイクル協力店にご相談ください。

(資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう)

## 2. バッテリーについて

### 2.1 電動アシスト自転車のバッテリーについて

本電動アシスト自転車のバッテリーはリチウムイオンバッテリーです。

このバッテリーは軽くて電池容量も優れているバッテリーですが、次のような性質があります。

- ・極端に温度の高い／低い環境では性能が低下する恐れがある
- ・放置中でも放電がわずかにある。
- ・数回使用することで新品時より性能が安定する。

### 2.2 バッテリーの特性

・電動アシスト自転車のバッテリーは、温度が上がると、システム保護制御が働きアシスト力が低下することがあります（故障ではありません）。その後、バッテリーの温度が下がると機能が回復いたします。

・バッテリーの温度が低下すると、一回の充電あたりで走行できる距離が短くなったり、アシスト力が弱くなるがありますが、これはリチウムイオンバッテリーの特性で、故障ではありません。その後、温度が上がると回復します。バッテリーを 15 ～ 25℃の室内で保管してからご使用いただくことで、この症状を軽くすることができます。

・このバッテリーは置いておくだけでも、僅かながらに放電します。ご使用前に充電することで回復します。

### 2.3 バッテリーの交換保証とリサイクルについて

電動アシスト自転車のバッテリーの保証

電動アシスト自転車のバッテリーには、一定期間内の著しい劣化・故障に対して、保証しています。詳細は保証書をご確認ください。

#### バッテリーリサイクルのご協力をお願い

リチウムイオンバッテリーは、「資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）」で、次の2つが義務付けられています。

- ・使用後の回収
- ・再資源化

使用済みの充電式バッテリーは、お早めにリサイクル協力店にご相談ください。



## 2.4 充電のやり方

バッテリーを取り外して充電する

①フレームをしっかりと折り畳んで、充電口の防水キャップを外します。

※ご注意：防水キャップは充電口と接続するため、防水キャップを外さない状態で、直接にバッテリーを取り外す / 取り付けると、防水キャップと充電口が破損する恐れがあります。

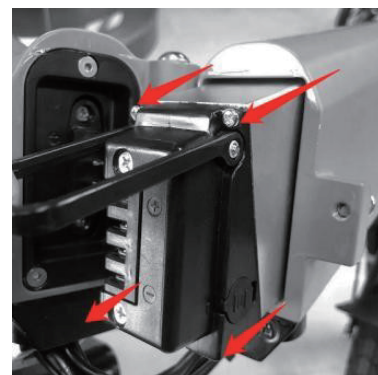
②鍵を左回りに180度回すと、ロックが解除されバッテリーを取り外せるようになります。



③バッテリー落下防止のために、両手をそえながら取り外します。

※ご注意：反対側のフレーム蓋のプラグに接触しないようにバッテリーを取り外し、あるいは取り付けてください。接触すると火花が発生する恐れがありますので、ご注意ください

④充電器をバッテリーの充電ポートに接続します。充電器をコンセントに刺すとバッテリーは充電されます。充電が完了すると、充電器のライトは赤色から緑色に代わります。



### ●バッテリーを取り付ける

①フレームを折りたたんで、充電口の防水キャップを外します。

②両手を添えて、バッテリーをフレームの端子部に合わせて、しっかりと最後まで差し込みます。鍵を右回りに180度回してバッテリーをロックしてから、鍵を取り出します。

### ●バッテリーを取り付けたまま充電する

車体右側の蓋にある充電口の防水キャップを外して、充電器を充電ポートに接続します。充電器をコンセントに差し込むとバッテリーは充電されます

※各車のスペアキーは販売しておりませんので、鍵紛失した場合には再発行できかねます。必ず鍵を大切に保管してください。

### 3. 乗車前の注意点

#### 3.1 日常点検



#### ①にぎり（グリップ）の固定状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

にぎり（グリップ）に力を入れてもハンドルに対しても回ったり、抜けないことを確認します。



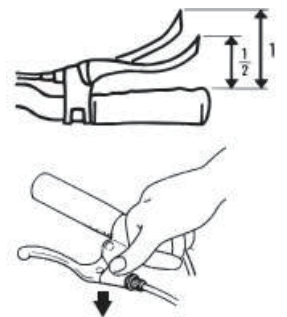
#### ②ベルの作動具合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ベル（報知器）が正常に鳴るか、動きが悪くないかを確認します。

#### ③ブレーキレバーの状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・握りしろ（あそび）：前後のブレーキレバーを握って、レバーとハンドルグリップとの間が約  $\frac{1}{2}$  でブレーキがきくかを確認します。ブレーキレバーの握りしろが大きすぎたり、小さすぎたりした場合は、販売店やお近くの自転車屋さんにお問い合わせ・ご相談ください。

・ブレーキレバーの固定：レバーを指で押して、ズレ動かないことを確認します。



#### ④ハンドルの状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

前輪を足で挟み、固定した状態で、ハンドルを上下・左右・前後方向に力を加えても、がたつかないか確認します。また、ハンドルが前輪に対してほぼ直角に取り付けられているか確認します。ハンドルの高さは、サドルにまたがった状態でハンドルバーを握ったとき、軽くひじが曲がるくらいが適正な位置です。また、ハンドルバーの高さを調整する時、はめ合せ限界標識を越えて調整しないでください。



#### ⑤ヘッドパーツの確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

左右のブレーキレバーをにぎり、自転車を前後にゆすり、ヘッド部のゆるみ、ガタがないか確認します。

#### ⑥前後ブレーキ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

前後ブレーキの取り付け部のネジがゆるんで、ブレーキにガタつきがないか確認します。また、ブレーキをかけたとき、ブレーキシューが正しくローターに当たることを確認します。

#### ⑦ペダル他、可動部のがたつき・・・・・・・・・・・・・・・・

ペダルなど可動部に、異常ながたつきがないか、滑らかに回転するか確認します。

#### ⑧タイヤの空気圧、摩耗、損傷・・・・・・・・・・・・・・・・

十分に空気が入っていて、推奨空気圧（35psi~45psi/2.4~3.1bar）になっているか確認します（※エアゲージ付きの空気入れが必要）。空気圧が適正値でないと、パンクやタイヤが車輪に正しく装着されず、車体各部のがたつきの原因になります。その他に、タイヤが摩耗していないか、釘などの異物がささっていないか確認します。

〈タイヤ空気圧表示例と換算値〉

$$1\text{KPa}=0.01\text{kgf/cm}^2=0.145\text{PSI}$$

KPa	kgf/cm <sup>2</sup>	PSI
300	3.0	43.5
450	4.5	65
690	6.9	100

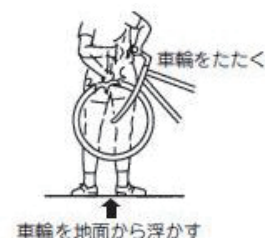
一般のシティ車は3kgf/cm<sup>2</sup>(3気圧)が適正空気圧です。

#### ⑨前後車軸の状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・前後車輪の固定：自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいて、車輪がズレたりガタついたりしないか確認します。

・前後車輪の振れ、ガタ、回転性：自転車を持ち上げて車輪を回してみ、スムーズに回転し大きな振れやガタがないか確認します。

※警告：ズレやガタがあると、走行中に外れて、事故・けがを起すおそれがあります。



車輪を地面から浮かす



## ⑩フレームの状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

フレームと各部品がしっかりと固定されているかを確認します。

## ⑪シートクランプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

シートクランプがゆるんでいないか確認します。

## ⑫サドルの状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

適切なサドル高は、サドルにまたがった状態で両足のつま先がともに地面につくくらいの状態です。また、サドルの固定に異常（ゆるみやがたつき）がないかを確認します。

### ・正しい乗車姿勢

サドルに腰をおろし両手をにぎりにおいた状態で、

- ①両足先が確実に地面につくこと。
- ②上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。
- ③ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず、安全にハンドルの操縦操作ができること。



- ④円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、シフトレバー、ベルなどが安全に操作できること。

### ※サドルの調整についてのご注意

- ・車体側に緩み具合を調整するネジがあり、締める場合レバーを開けて、時計回り方向に2～3周回し、再度レバーを閉めてください。
- ・サドルの高さ調整は運転中に行わないでください。
- ・サドルを高くする場合は、はめ合せ限界標識がフレームからはみださないようにしてください。シートポストが破損したり、脱落するおそれがあります。
- ・サドルを低くする場合は、シートポストのテーパ部（細くなっている部分）をフレームの中に入れてください。サドルが確実に固定されず、けがをするおそれがあります。
- ・調整後は、確実に固定されているか確認してください。固定が不十分であると、運転できなくなり、事故・けがのおそれがあります。



⑬バッテリーの残量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

メインスイッチの電源を入れると、バッテリー残量が表示されるので目安を確認します。

⑭チェーン油汚れ・たるみ・・・・・・・・・・・・・・・・

油切れが無く、指で動かしてみたときなめらかに動くこと。チェーンが大きいたるんでないこと。  
(自転車を 10cm ほど持ち上げて軽く落とした時、チェーンがフレームやチェーンケースに強く当たるほどたるんでいないこと)

⑮電動アシストシステムの作動・・・・・・・・・・・・・・・・

メインスイッチの電源を入れてアシストモードに入った状態で、ペダルを踏み込み発進させ、電動アシストシステムが作動するか確認します。

(※電動アシストシステムは精密部品です。分解などは決して行わないでください。もし、異常が認められる場合はただちに使用をやめ購入したお店にご相談ください)

⑯前照灯の点灯・・・・・・・・・・・・・・・・

前照灯は正常にオン、オフすることができるか確認します。

**その他：**自転車用ヘルメットの着用をしてください

(児童が自転車に乗車するときには、必ず自転車用ヘルメットを着用してください)



## 3.2 走行モードについて

### 走行モードの使い分けかた

走行状況に合わせて、5段階のアシストモードが選べます。

サイクルコンピューター「i」ボタンを長押しして電源を入れます。「+」又は「-」を短押しするとアシスト力の段階を調整できます。

イラストは走行状態の違いによるアシスト力の変化を示しています。

1段階	節電し走行距離を伸ばすモード	長距離走行でも、アシスト力が欲しいときに使います	平坦路 
2段階	1段階より少しだけアシスト力を増やしたもの	長距離走行でも、アシスト力が欲しいときに使います	平坦路 
3段階	バランスに最も優れたモード	平坦な道や緩やかな坂道などで使います	ゆるい上り坂 
4段階	やや強めのアシスト	漕ぎ出しやきつい上り坂など十分なアシスト力が必要なときに使います	きつい上り坂 
5段階	アシスト力が最大となり、一瞬で加速することができる。	漕ぎ出しやきつい上り坂など十分なアシスト力が必要なときに使います	きつい上り坂 

## 走行距離に影響を与える環境

以下の状況で走行した場合は、アシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。

- ①発進・停止の頻度が高い
- ②積載物が重い（多い）
- ③急坂の登坂
- ④走行する路面の状態が悪い
- ⑤強風
- ⑥低温時
- ⑦タイヤの空気圧が低い
- ⑧バッテリーの性能が劣化している
- ⑨ライト（前照灯）が点灯している

整備不良の場合にも、走行距離が短くなる可能性があります。走行距離が短くなる整備不良の例：

- ・チェーンが滑らかに動いていない。
- ・常時ブレーキが効いている。（引きずっている）

## 4. タイヤについて

### 4.1 空気を入れる時の注意事項

A1TS が使用しているタイヤのバルブは米式（アメリカ式シュレッターバルブ）となります。お手元の空気入れが米式バルブに対応しているか、今一度ご確認ください。対応していないものを使用すると思わぬ事故や部品の破損につながる恐れがありますので、お控えください。

タイヤに空気を入れる時に、適切な空気圧になるようにしてください。

適正の空気圧は道路の状況及び乗員と荷物の重量により異なる場合もありますが、推薦の空気圧は「35～45psi / 2.4～3.1bar」です。

※気温が高い時、又は適正空気圧の範囲内に空気を入れていない場合では、チューブがパンク、及びタイヤが完全に車輪にはまらない恐れがありますので、空気を入れる際は十分にご注意ください。

## 5. 乗車時の注意

### 5.1 発進のしかた

①ペダルに足をかけないでサイクルコンピューターの「i」ボタンを長押しして、電源を入れます。必要に応じ走行モードの切替をします。

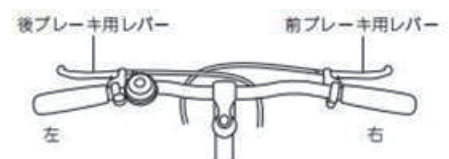


②サドルに座り、ペダルに片足を乗せて発進の準備をします。走り出す前に前後左右の安全を確かめ、発進の合図をしてからペダルをゆっくりと踏み込みます。電動アシストシステムはペダルを踏み込むと瞬時に作動します。走行中（電動アシスト機能の作動中）はモーターが作動しているため、モーター音が発生します。

（※空き地や公園などでよく練習し、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れてから一般道路でお乗りください。また、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れるまでは「1段階」を使用することをおすすめします）

### 5.2 ブレーキ操作のしかた

ブレーキをかける時は、前後ブレーキを両方ともかけてください。できるだけ、急ブレーキはかけないように走り、日ごろからブレーキの効き具合を確認しておきましょう。



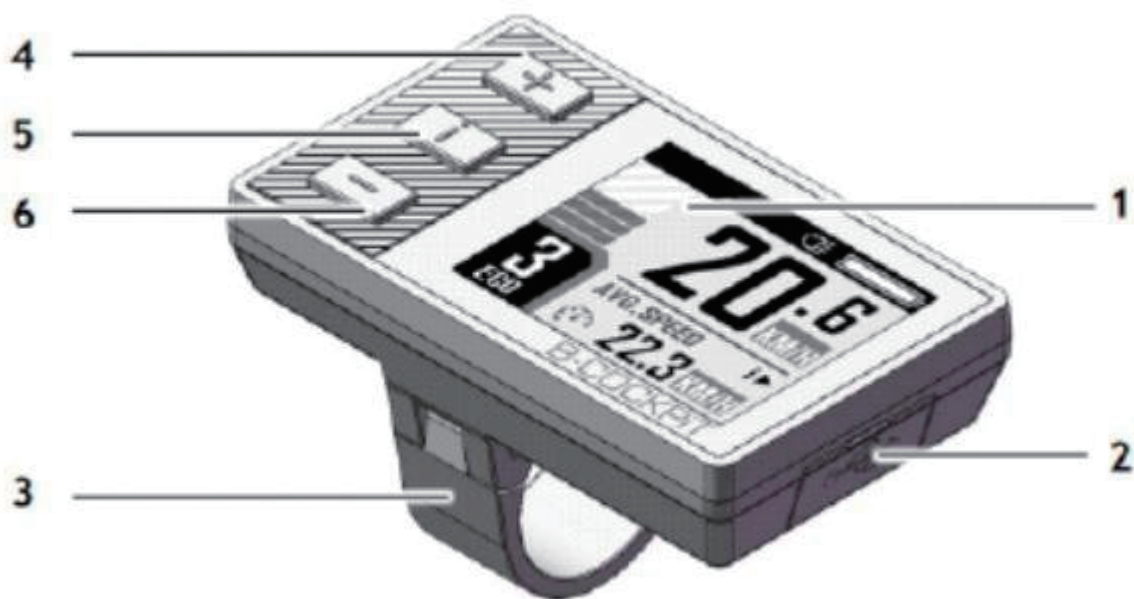
（※ご注意：前ブレーキまたは後ブレーキだけ強くかけると、前輪または後輪がロックして操縦困難になったり、車体後部が持ち上がって転倒するおそれがあります）

### 5.3 前照灯の操作について

電源を入れた状態で「+」を長押しすると、前照灯の点灯と消灯を切り替えることができます。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯標識もディスプレイに表示されます。

（※前照灯が点灯した状態でのアシスト走行中にバッテリー残量が減少すると、アシスト走行ができなくなるため、走行開始前にバッテリー残量が十分にあることをご確認の上ご使用ください）

## 5.4 サイクルコンピューターの機能

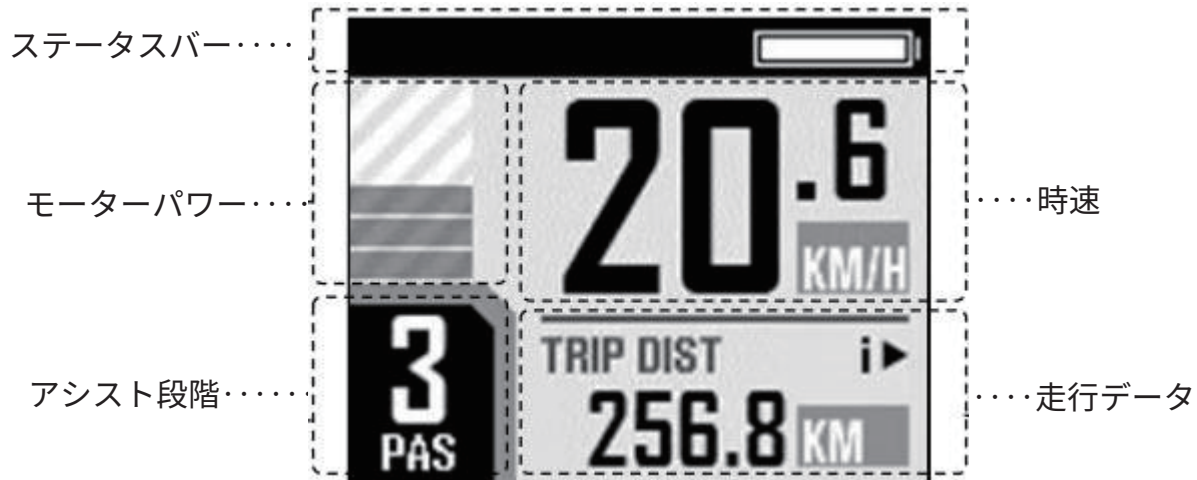


- ①LCD スクリーン
- ②USB 出力ポート
- ③固定具
- ④「+」ボタン
- ⑤「i」ボタン
- ⑥「-」ボタン

### 各ボタンの機能

「+」ボタン：	短押し	長押し
	アシストレベルを上げる	前照灯：点灯・消灯
「-」ボタン：	短押し	長押し
	アシストレベルを下げる	/
「i」ボタン：	短押し	長押し
	データ表示方法の切り替え	電源 ON/OFF

## ユーザインタフェース



## ステータスバー



## 走行データ

「i」 ボタンを短押しして走行についての情報の表示が切り替えます。下記のように7種類のデータを表示することができます。



## その他

### 故障コード表示



故障コード	故障内容
0x21	電流異常・または MOS ケーブル損害
0x22	ハンドル異常
0x23	モーター欠相
0x24	モーター異常
0x25	ブレーキ異常
0x26	電圧不足
0x30	通信エラー

※ご注意：故障コードが出た場合では、弊社のメールアドレスにご連絡ください。Email :  
customer@ange-store.jp

その際に注文番号、使用時間、及び不具合の状況がわかる動画、或いは写真をメールに添付した上でご連絡頂きますようお願い致します。

## 5.5 荷物の積載

荷物の積みすぎには注意しましょう

本電動アシスト自転車の最大積載重量（乗員の体重と積載重量の合計）は120kgです。また、取付可能なリヤキャリアの最大積載重量は25kgです。荷物を積みすぎるとアシスト走行時にバッテリーに過大な負荷をかけてしまいアシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。また、常に重い荷物を積んだ状態で走行しているとタイヤなどの部品の消耗が早くなる場合があります。



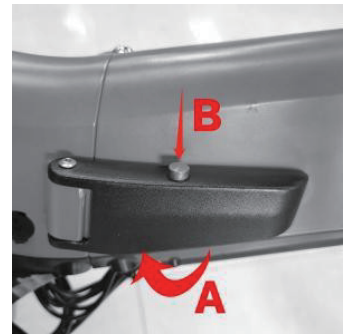
### ご注意

- ①荷物の大きさや重さが許容範囲を超えると、自転車の安定性が損なわれ、転倒・事故を起こすおそれがあります。
- ②積載条件を超えない荷物でも、通常より重い荷物を積載するときは、荷物を積まない場合に比べて、操舵性や制動性能が異なります。安全の確保できる場所で、十分練習してから乗車しましょう。個人差がありますので、積載可能な条件の範囲であっても、運転に不安を感じる場合は使用しないでください。
- ③フロントバスケットまたはリヤキャリアにを取り付けて、荷物を積むときは、左右のバランスをとるようにして積んでください。また、荷物がずれたり動いたりしないよう、しっかりと固定してください。荷物が動くと走行が不安定になり、転倒などの事故につながるおそれがあります。
- ④リヤキャリアに荷物を積む時は、固定用のひも・ベルトでしっかりと固定し、たるまないようにしてください（車輪への巻き込み防止）。
- ⑤個人差があるため、上記の積載条件内の場合でも、運転に不安を感じた場合は、そのまま使用しないでください。

## 5.6 組み立て方

### ①. 車体部を組み立てる

両手でフレームを完全に展開します。フレームレバー (A) を閉めてロックします。フレームの組立が完了後、後輪のスタンドを立てます。レバーボタン (B) を押しながらレバー (A) を開くとフレームが折り畳めます。



### ②ハンドル部を組み立てる

ハンドルポストにあるカムレバー (C1) を開け、クランプのナット (C2) を緩めて、溝に合わせてハンドルをハンドルポストに差し込みます。ハンドルの高さを調節した後、ナット (C2) を締めてカムレバー (C1) を閉めてハンドルを固定します。

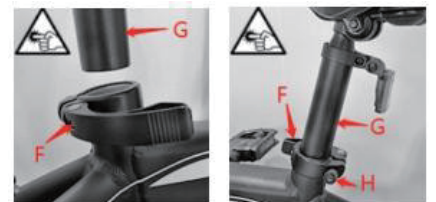


車体を安定させ、ハンドルポスト (C) を起こします。そして、折りたたみレバー (D) を起こしてロックします。レバーボタン (E) を押すとレバーをスムーズに開くことができます。



### ③シートポストを組み立てる

シートポストのカムレバー (F) を開き、シートポスト (G) を差し、シートの高さを調整します。ナット (H) を回転させて固定の強さを調整し、カムレバーを閉めて、シートポストを固定します。

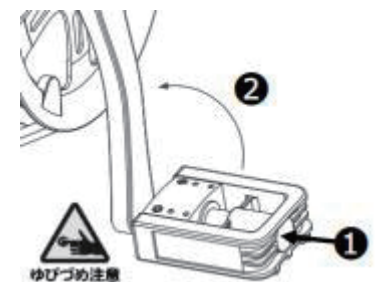


### ④ペダルを取り付ける

まずペダルの先端をクランクに少し入れて、クランクの背面に、付属の修理キットの六角レンチを差し込んで左 / 右回りに回して、ペダルを限界までしっかりと締めて取り付けます。

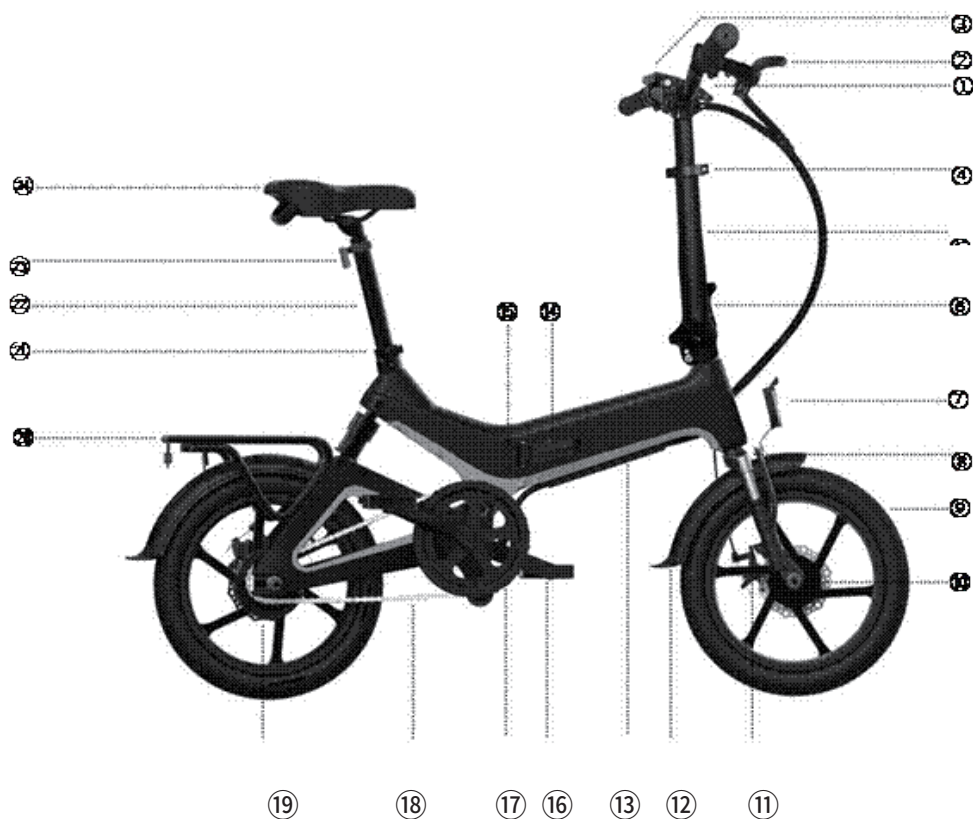
※ペダルを完全に締めていない状態で使用すると、ペダルとクランクは摩耗やすくなり、すぐに破損する恐れがあります。

取り付ける際は【手で回して固定するだけでなく最後は必ずレンチで固定してください】。ペダルを折りたたむ際にはペダルを①矢印の方向にを押しながら、②の方向へたおします。





## 5.7 各部の名称



付属品リスト：充電器 \*1、取扱説明書（本書）\*1、製品保証書 \*1、フロントリフレクタ \*2、リアランプ \*1、バッテリー鍵 \*2

- ①ベル
- ②ブレーキレバー
- ③操作ディスプレイ
- ④ポストクランプ
- ⑤ハンドルポスト
- ⑥ハンドルポスト折りたたみレバー [クイックリリース式]
- ⑦前照灯
- ⑧前サスペンションフォーク
- ⑨タイヤ
- ⑩前ハブ

- ⑪ディスクブレーキ
- ⑫どろよけ
- ⑬前フレーム（バッテリー内蔵）
- ⑭フレーム折りたたみレバー [クイックリリース式]
- ⑮バッテリー充電ポート
- ⑯折りたたみペダル
- ⑰クランク
- ⑱チェーン
- ⑲駆動ユニット
- ⑳リアキャリア
- ㉑シートポストクランプ
- ㉒シートポスト
- ㉓リアリフレクター
- ㉔サドル

※商品画像に関しましては実際の品番より色具合等が多少異なる場合がございますのでご了承ください。

## 6. 車体仕様

車体材質	マグネシウム合金
折りたたみサイズ	770*430*700mm
展開サイズ	1455*595*1100mm
梱包サイズ	820*380*640mm
ペダル高さ	100mm
ホイールサイズ	16 インチ
タイヤサイズ (米式バルブ)	16*2.125
総車両重量 (バッテリー含め)	約 21.8kg
許容積載質量 (乗員+荷物)	<120kg
最大総質量	約 141.8kg
リアキャリアクラス	25 クラス
アシスト速度範囲	<24km/h
使用温度範囲	-10~45°C
防水レベル	IP 54
バッテリー種類	18650 リチウムイオンバッテリー
バッテリー容量	36V-7.5Ah
モーター形式	電動アシスト
モーター定格出力	250W
充電電圧	DC42V
輸入電圧	AC100~240V
低電圧保護値	31V
過電流保護値	15A
充電時間 (目安)	3~4H
ディスプレイ表示	TFT
照明装置	前照灯 & リアテールランプ
制動装置	前後ディスクブレーキ
泥除け	あり

※荷物の運搬にキャリア及びバスケット以外は使用しないでください。

※説明書や表にかかれた一部の数値は試験時のものでバッテリー残量、車載重量、タイヤ空気圧、路面状態、チェーンなど様々な要因によって変化する場合がございます。

## 7. 保証規約について

7.1 保証規約については下記 URL をご参照下さい。



## 8. お問い合わせについて

8.1 製品情報、保証内容、修理対応などにつきましては、購入したモール（楽天市場・Yahoo! ショッピングなど）の購入履歴からショップへお問い合わせいただくか、メールで [customer@ange-store.jp](mailto:customer@ange-store.jp) へ下記アドレスまでお問い合わせ下さい。

メールでのお問い合わせ時には、以下をご記入の上ご連絡下さい。

- ・購入者名・ご購入日・ご購入先（販売店と購入 EC モール名）
- ・お問い合わせ内容（故障内容、その他）

〒546-0012

大阪府大阪市東住吉区中野 1-2-5 日商商事ビル 2F

※弊社に商品を発送する場合は事前にお問い合わせいただき、弊社から承諾があった場合のみお願いいたします。

※問い合わせ・承諾なしで届いた商品について受取拒否する場合がございますのでご注意ください。